



2017年1月31日

各位

会社名 アステラス製薬株式会社
代表者 代表取締役社長 CEO 畑中 好彦
コード番号 4503
(URL <http://www.astellas.com/jp>)
東証 (第一部)
決算期 3月
問い合わせ先 広報部長 臼井 政明
Tel: (03)3244-3201

2016年度第3四半期の連結業績について

アステラス製薬株式会社(本社:東京、以下「アステラス製薬」)は、2017年3月期(以下「2016年度」)第3四半期累計期間(2016年4月1日から12月31日)の連結業績を発表しましたのでお知らせします。

【当第3四半期累計期間の業績ハイライト】

- 売上高については減収(前年同期比 5.6%減)、但し、為替の影響を除くと約 3%増収。コア営業利益(同 3.4%増)及びコア四半期純利益(同 4.6%増)については増益
- グローバル製品の売上高は為替の影響を受けたが、その影響を除くと XTANDI®/イクスタンジ®、過活動膀胱(以下「OAB」)治療剤は着実に伸長
- 日本は薬価改定の影響等により減収。米州、EMEA、アジア・オセアニアは為替の影響を除くと増収。
- 持続的な成長に向けた戦略課題への取り組みを着実に推進
 - ・ ドイツの Ganymed Pharmaceuticals AG(以下「Ganymed 社」)買収の完了

アステラス製薬の代表取締役社長 CEO の畑中 好彦は、次のように述べています。「この四半期の主な取り組みの一つとして、昨年12月にドイツの Ganymed 社を買収しました。本買収を通じ、Ganymed 社が有する後期開発段階にある胃食道がんに対する抗体プログラムを取り込むことにより、がん領域における開発パイプラインを更に拡充できるものと考えています。このように、私たちは経営計画で掲げる『製品価値の最大化』『イノベーションの創出』『Operational Excellence の追求』の3つの戦略課題への取り組みを引き続き推進していくことで、革新的な医療ソリューションを創出し、患者さんをはじめとしたステークホルダーに価値を届けていきます。」

<連結業績:コアベース(2016年4月1日から12月31日)>

(単位:百万円)

	前第3四半期累計 (2016年3月期)	当第3四半期累計 (2017年3月期)	対前年同期増減額 (増減率)
売上高	1,065,666	1,005,587	△60,079 (△5.6%)
コア営業利益	233,863	241,837	7,974 (3.4%)
コア四半期純利益	169,379	177,189	7,810 (4.6%)
基本的1株当たり コア四半期純利益(円)	78.16	83.62	5.46 (7.0%)

【売上高の状況】

売上高は、為替の影響に加え、2016年4月に日本で実施された薬価改定の影響等もあり、10,056億円(同5.6%減)となりました。但し、為替の影響を除くと前年同期に比べ約3%の増収となりました。グローバル製品については、前立腺がん治療剤XTANDI®/イクスタンジ®、ベシケア®とベタニス®/ミラベトリック®/ベットミガを合わせたOAB治療剤の売上はそれぞれ為替の影響を受けましたが、為替の影響を除いたベースでは着実に伸長しました。免疫抑制剤プログラフ®の売上が減少しました。

<地域別売上高の状況¹>

- 日本の売上高は3,801億円(同4.2%減)となりました。このうち、日本市場での売上高は薬価改定の影響等もあり3,582億円(同7.2%減)となりました。ベシケア®とベタニス®を合わせたOAB治療剤、消炎鎮痛剤セレコックス®、成人気管支喘息治療剤シムビコート®、2型糖尿病治療剤スーグラ®等の売上が拡大しました。イクスタンジ®の売上は薬価改定の影響を受け減少しました。また、ワクチンの売上が昨年度実施された製造元の出荷自粛(一部の製品では出荷再開)の影響が続いたこと等により減少したほか、高コレステロール血症治療剤リピートル®や消化性潰瘍・胃炎治療剤ガスター®等の売上が、後発医薬品の影響等により減少しました。
- 米州の売上高は3,081億円(同11.6%減)となりました。なお、米ドルベースでの売上高は2,889百万米ドル(同0.8%増)となりました。XTANDI®、ベシケア®とミラベトリック

¹ 地域別売上高については売上元会社の所在地に基づき集計しています。

ク[®]を合わせた OAB 治療剤のほか、心機能検査補助剤レキスキャン等の売上が為替の影響により減少しましたが、米ドルベースでの売上はそれぞれ拡大しました。アゾール系抗真菌剤クレセンバが売上に貢献しました。プログラフ[®]の売上は減少しました。

- EMEA²の売上高は 2,529 億円(同 0.6%増)、ユーロベースでは 2,143 百万ユーロ(同 14.6%増)となりました。XTANDI[®]の売上が拡大しました。ベシケア[®]とベットミガを合わせた OAB 治療剤、プログラフ[®]の売上は為替の影響等により減少しました。
- アジア・オセアニアの売上高は 645 億円(同 6.3%減)、為替の影響を除くと 9.5%の増収となりました。XTANDI[®]、ベシケア[®]とベットミガを合わせた OAB 治療剤の売上は増加しました。一方で、前立腺肥大症の排尿障害改善剤ハルナール[®]及びプログラフ[®]の売上は為替の影響等により減少しました。

【その他の決算ハイライト】

昨年 4 月にグローバル皮膚科事業を譲渡したことに伴い、譲渡された製品の売上、諸経費が計上されない一方で、受領した譲渡対価を一定期間にわたり収益として認識しています。この結果、当第 3 四半期累計期間において売上高、利益に一定程度のプラスの影響がありました。

² EMEA: 欧州・中東・アフリカ

【当第3四半期における戦略課題への取り組み】

アステラス製薬は、『製品価値の最大化』『イノベーションの創出』『Operational Excellence の追求』への取り組みを通じて、中長期にわたる持続的な成長を目指していきます。

＜製品価値の最大化＞

- XTANDI®を中心とするがん領域フランチャイズ及びベシケア®とベタニス®/ミラベトリック®/ベットミガを合わせた OAB フランチャイズの最大化のため、引き続き発売国及び売上を拡大

＜イノベーションの創出＞

- 新たな取り組み
 - Ganymed 社の買収完了

＜Operational Excellence の追求＞

- 経営資源の最適配分
 - 末梢神経障害性疼痛治療剤 Qutenza の Grünenthal 社への譲渡
- 組織・機能の見直し
 - 日本における運営管理業務のアウトソーシングとアステラスビジネスサービス株式会社の解散の決定

2016 年度第3四半期連結業績の詳細、及びその他の決算関連情報については、当社ホームページ (<https://www.astellas.com/jp/ir/library/index.html>) をご覧ください。

以上

注意事項

このプレスリリースに記載されている現在の計画、予想、戦略、想定に関する記述及びその他の過去の事実ではない記述は、アステラスの業績等に関する将来の見通しです。これらの記述は経営陣の現在入手可能な情報に基づく見積りや想定によるものであり、既知及び未知のリスクと不確実な要素を含んでいます。さまざまな要因によって、これら将来の見通しは実際の結果と大きく異なる可能性があります。その要因としては、(i) 医薬品市場における事業環境の変化及び関係法規制の改正、(ii) 為替レートの変動、(iii) 新製品発売の遅延、(iv) 新製品及び既存品の販売活動において期待した成果を得られない可能性、(v) 競争力のある新薬を継続的に生み出すことができない可能性、(vi) 第三者による知的財産の侵害等がありますが、これらに限定されるものではありません。また、このプレスリリースに含まれている医薬品（開発中のものを含む）に関する情報は、宣伝広告、医学的アドバイスを目的としているものではありません。